

厳島神社創建の謎を解く

講師：木本 泉（宮島口在住 歴史研究家）

開講日：9月7日（水）18：30～20：00 定員30名 受講料1,000円

会場：コミュニティ・アカデミー上幟

■講義の趣旨

海に浮かぶ世界遺産の厳島神社は、平清盛が建設したことで名高い。ただ彼が創建したのではなく、元あった厳島神社への信仰心によって、神社全体を大変身させたのである。有名な平家納経も、元の社殿に平家一門が集まって奉納された。では元からあった厳島神社は、何時どのような経緯で創建されたのだろうか。

創建時期については、色んな文書に「推古天皇御宇端正五年癸丑」とある。これは西暦593年にあたり、日本史でいう古墳時代から飛鳥時代へ移行する時期である。この少し前に中国から伝わった寺院建築を真似て、自然崇拜だった日本人が神の社(ヤシロ)を建て始めたのがこの頃である。すなわち厳島神社は、当時の日本で最新の情報に基づいて建てられたと言っている。

それなら、誰が何のために建てたのだろうか。これに関しては多くの伝承がある。広く知られているのは「市杵島姫命が船でやって来て、それを迎えた佐伯鞍職が神社を建て初代神主になった」というものである。これは一体何を意味しているのだろうか。

今回の講義は、厳島神社創建が、日本の古代史の中でどのように位置づけられるかについて、話しをさせていただきたい。

■講師紹介：木本 泉（きもと いずみ）



1942年、広島生まれ。1965年、東洋工業(現マツダ)へ入社。車の設計開発の部門に従事。家族とアメリカ駐在。開発主査歴任。1996年よりドイツ系部品会社、ベバストジャパンの役員。退職後、地元街づくりグループ「かみきど倶楽部」代表。宮島口在住。著作『佐伯みち——古代の謎を歩く』、共著『小説佐伯景弘』。

※受講をご希望の方は、①お名前、②年齢、③連絡先、住所をご記入の上で下記にE-MailもしくはFAXにてお申込みください。

コミュニティ・アカデミー上幟

TEL & FAX： 082-225-8103

E-Mail： c.a.kaminobori@outlook.jp



広島市中区上幟町 10-15-201 島田ビル 2F コミュニティ・アカデミー上幟
<http://manabi-kaminobori.com/>